



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内
Tel/fax: 03-5577-4687 E-mail: sykoffice21@gmail.com
Web: http://syknet.jimdo.com 郵便振替: 00180-9-81537

No. 120

2019年12月1日発行



群馬上毛地方と柏木義円ぎえん ～地域に生きる信仰

飯能キリスト聖園教会 牧師
聖書神学舎講師
若井 和生



片野真佐子著『孤憤のひと 柏木義円』
新教出版社（1993年）より

かつて私が聖書神学舎の神学生だった時、群馬県安中市を訪ねたことが三度ありました。そのうちの二度は、学舎のある東京都羽村市から青梅線、八高線、信越本線を乗り継いで電車で、一度は車を借りて安中に向かいました。車で行った際には当時まだ世界遺産に登録されていなかった富岡製糸場を見に行ったり、磯部温泉に立ち寄ったり、群馬上毛地方を堪能する楽しいドライブだったことを覚えています。

日本における福音宣教の歴史にとって、上毛地方は大切な場所だと私は当時から思っていました。日本組合教会安中教会（現・日本基督教団安中教会）を中心として、教会

の地域に対する働きかけが力強くなされていたことを知っていたからです。明治期以来、キリストのよき働きを社会にあって展開して来られた多くのキリスト者たちがおられました。ただ、教会の働きと言うよりは、個人的な働きとして展開されていくことも多かったのではないのでしょうか。神の国の働きは教会を通してなされていくことを思う時、それらの働きを「神の国の建設」と呼ぶのには、少し物足りなさを感じます。

その点、上毛地方には教会を中心とする福音宣教の働きがなされてきました。安中を中心として、藤岡、甘楽、高崎、原市、前橋、吾妻などの周辺の町々に組合教会に属する教会の形成がなされ、教会間の交わりも盛んだったようです。「上毛教界月報」という機関紙を毎月発行し、諸教会の様子、教勢、祈りの課題などが毎回紹介されました。教会の信徒たちはこの「月報」を読む度に、仲間の教会の様子を知り、ともに心を合わせて祈ることができたのです。

「月報」を読んでいて楽しいのは、毎回、最後のページに掲載される「上毛基督教徒職業案内」です。医師、旅館、弁護士、時計店、醤油味噌製造業など、教会の信徒たちが地元の様々な業界で活躍していたことがわかります。繭糸商、蚕種製造業、絹織物製造…などの職業が多く見られるのは、製糸産業で栄えた上毛地方ならではの特徴でしょう。これらの教会の働きが足尾銅山鉱毒事件や群馬廃娼運動など、地域の社会的な問題にも積極的に関わり、大きな貢献をなしていたことが知られています。

そんな一連の働きの中心にいたのが安中教会の牧師・柏木義円です。「月報」に寄せられた柏木の文章に心打たれることも多いのですが、私がさらに驚かされたのは柏木が書き留めた日記の内容です。柏木は安中を中心とした周辺の町々、村々を歩いて伝道し、信徒宅を訪ね、各地で家庭集会を開いているのです。天皇制や社会問題などに対する鋭い発言で注目されることの多い柏木義円なのですが、柏木は第一に伝道者であり牧者でした。福音を伝えること、たましいのケアに努めることを生涯大切にしました。

柏木の日記の中で、こんな一文とも出会いました。「昨夜室田村、清水万作氏ニテ集リヲ為ス、予ノ話実ニカナカリキ、会者十六名。」自分の語ったメッセージに「力がなかった」と言ってがっかりしているのです。同じ牧師である私にとっては何という慰めでしょう。

自ら病気を患い、妻や息子を亡くすという悲しみも味わい、自らの内にある弱さや罪の醜さとも向き合い、もがきながら闘った牧師でした。そして「富国強兵」のスローガンとともに近代化を推し進める華やかな日本社会の裏側で、犠牲になったり、取り残されたりした人々のために心を砕く牧会の働きでした。上毛地方一帯に広がる福音宣教の働きの中心に、このような一人の牧者の祈りと働きがあったことを、私は忘れることができません。

「さあ、近くにある別の町や村へ行こう。わたしはそこでも福音を伝えよう。そのために、わたしは出て来たのだから。」 マルコの福音書 1章 38節

総主事就任のご挨拶

聖書を読む会 理事長
水口 功



聖書を読む会（S Y K）は今、大きな転換期を迎えています。草創期に尽力されたボーエン先生が4年前に、そしてフライシュマン先生が今年、召されました。私自身、学生時代にお世話になった先生方の召天を悲しく思いますが、一方、S Y Kに初めて総主事が立てられるという嬉しい出来事が起こりました。

今年の11月1日付で総主事に就任された島先克臣氏は、これまで牧師、宣教師、日本聖書協会職員などを務められた豊富な経歴の持ち主です。

S Y Kでは、ここ数年、従来の翻訳物の手引から、日本人の手による手引の出版に移行しています。聖書全体が示す救いの豊かさを、聖書各書を通じて学び、霊の糧を得ることが、私たちの信仰の足腰を強くする秘訣です。S Y Kは、グループ聖研の手引を通して、その使命を担っていきたくと願っておりますが、この度、総主事に就任した島先氏は、今後、この使命遂行のために大いに用いられる器であると確信しております。総主事の新しい働きのために、お祈りとご支援のほどをよろしく申し上げます。

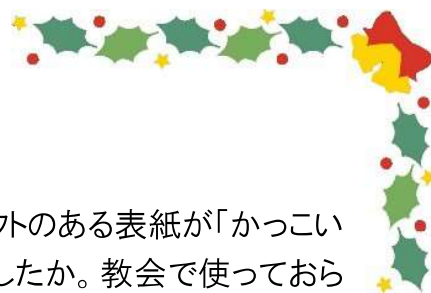
聖書を読む会 総主事
島先 克臣



聖書を読む会は、過去半世紀にわたって、グループで聖書を読むことを励ましてきました。「共にみことばに聞き、発見したことを分かち合い、教えられたみことばに実生活の中で従っていく。」そのような小グループは、現代の宣教と教会形成にとって、いままで以上に必要になってきています。

手引を制作・頒布し、それを使っていただくことを通して、聖書を読む会が、ますます、神の国を広げる働きの一翼を担っていくことができるよう、力を尽くしたいと思います。今後も、引き続き、お祈りとご支援をいただきますよう、よろしく願いいたします。

SYK便り



〜〜 オリジナル手引で学んでみました 〜〜

この春出版した「ヨブ記・伝道者の書 -苦しみの日に-」。インパクトのある表紙が「かっこいい！」と皆さんの目を引いています。実際に学んでみていかがでしたか。教会で使っておられる牧師先生に感想をうかがいました。皆様の声もぜひお寄せください。

ヨブ記と伝道者の書は、読む機会が少ない書ですが、この手引を祈祷会で用いることで皆とじっくり学ぶことができました。最初は「恵まれる」方向で答えていきましたが、次第に、苦しみの現実を受け入れ、苦しみの中にも主がおられることを深く教えられることとなりました。特に「まとめ」と「祈り」の文がよいですね。（埼玉県、牧師）

◆◆◆ 出版情報 ◆◆◆

新オリジナル手引 いよいよ来春出版！

●伝道用手引「救いの基礎 — 聖書が語る世界 —」増補改訂版

装いも新たに登場！内容がさらに充実。伝道と信仰の確認のために！

●「神のご計画 —世界の創造から完成まで—」

聖書が語る、神のご計画の全体を学べる通読本。「救いの基礎」のガイドブックとしてもご活用ください。



2020 年度中に出版予定

●「ルカの福音書」

福音書を学ぶ待望の新刊手引！長いルカの福音書を、ポイントを押さえて学ぶことができます。

お知らせ

「使徒の働き -神の国の広がり-」の第二刷が、9月に出版されました。新改訂 2017 準拠ですが、聖書協会共同訳にも対応させ、また、数箇所を改訂しました。詳しくはホームページの「お知らせ」をご覧ください。

事務所から

11月より総主事に就任した島先克臣です。関西在住のため、SYKの働きが関西方面にも広がることを願っています。御茶ノ水のオフィスとは、スカイプ会議やクラウド上での書類の共有など、便利なツールを使って距離を縮めています。今後この新しい体制でどのようになってゆくのか。主に期待して歩みたいと思います。

◆◆ 「聖書を読む会」の働きは、皆さまのお祈りと献金によって支えられています ◆◆